

AAALA ニュース 123号 内容紹介

1 , 山崎圭一「南米ペルーで何が起こったのか」

左派のペドロ・カステージョ大統領が昨年 12 月、議会の弾劾決議をうけて失職、国家警察に逮捕され投獄された。農民、貧困層から支持で生まれた左派政権に何がおこったのか。日本 AALA 常任理事、横浜国大教授による経過分析。

2 , ベネズエラ情勢「野党勢力が暫定政府を解散」

米国の後押しをうけたグアイドー元国会議長を「暫定大統領」に頂いてきた野党勢力が昨年末、賛成多数で解散を決定。グ氏は野党を代表する立場をうしなった。米国政府による承認も微妙になったとロイター、日経が報道。

3 , スティーブン・セフトン「欧米と世界の多数派 - 抑圧 VS 解放」

南米の左派通信社テレスルの配信記事。欧米の支配とたたかう途上国の発展運動の立場から世界情勢を概観している。ロシアのウクライナ侵攻も支持して欧米「民主主義」の欺瞞を告発している。

テレスル社は、米国からの自立をめざす中南米諸国協同の報道機関としてベネズエラの故チャベス大統領の提唱でつくられた。

4 , S・アームストロング「東アジアでの包括的地域安全保障の約束」

オーストラリア国立大学に拠点をおく国際政治の情報誌「東アジア・フォーラム」の巻頭論文。米国はもはやかつてのような多国間システムの保証人ではなくなったとして、ASEAN が推進する TAC を中心とした経済安保秩序の構築を提案。ASEAN との関係重視に転換した新政権の外交の背景が理解できる。

5 , ポール・ヒア「米国のインド太平洋戦略の盲点」

米国有数の中国・東アジア専門家がバイデン政権のインド太平洋戦略を分析。中国を排除していることが盲点だとして、リアリストの立場から米中の協力を主張している。

6 , 坂本恵「岸田政権の安保関連3文書の改定とは何か」

日本 AALA 学術研究部長（福島大教授）が、3文書改定の意味と背景を考察。「閣議決定は閣議決定で覆せる」「2023 年を新たな戦前にさせないために」行動しようと呼びかける。